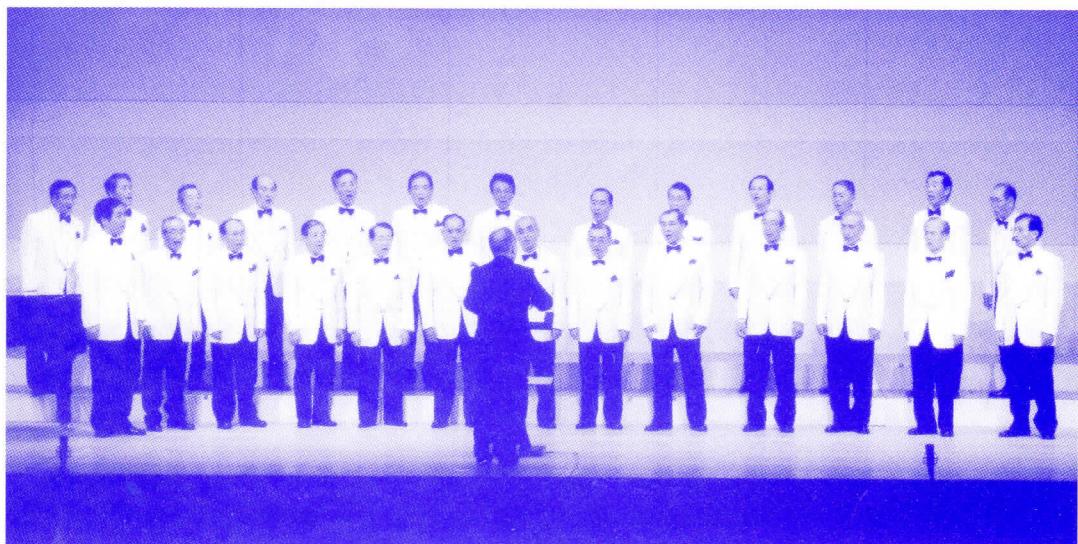


横浜さかえ男声合唱団

第3回 定期演奏会



平成19年5月20日(日)

開演 14時

横浜市 栄公会堂ホール

後援/栄区役所 栄区文化協会 栄区音楽協会

ご挨拶

本日はご多忙の中、私達の第3回定期演奏会にご来場いただき、ありがとうございました。

私達の合唱団の歴史は15年前に遡ります。当時は栄区民合唱団の「男声部」として活動していましたが、平成13年に「横浜さかえ男声合唱団」として独立、平成15年に第1回定期演奏会を開催しました。その後2年に1度の定演開催を目標に、今回第3回目の定期演奏会を迎えることになりました。

常任指導者堀部隆二先生のご指導の下、団員も30名に増えました。また4年前から「団員指揮者制度」を導入し、それまで隔週であった練習を毎週行い、レベルの向上に努めて参りました。

日頃の活動では、栄区の合唱祭への参加や、養護施設への訪問演奏などの地域活動も行っております。また先月には神奈川男声合唱協会の川崎演奏会があり、加盟13団体、360名による合同ステージでは「水のいのち」を歌い、深い感動を体験しました。

本日のプログラムは、第1ステージが「黒人靈歌」、奴隸制度の下で黒人が自由を求めた魂の叫びと祈りを歌います。第2ステージは団員指揮者による「世界の名曲」を、第3ステージは三善晃編曲によるピアノと合唱の競演ともいえる「唱歌の四季」を、そしてメインの第4ステージは尾崎喜八の詩に多田武彦が作曲した組曲「尾崎喜八の詩から」を演奏いたします。

「年々暗譜がきつくなった」とボヤキながらも気持ちはいつも青春です。50～80歳前後までの、親子ほど歳の違う30名の団員が心を一つにして歌います。

まだまだ力不足ではありますが、日頃の練習の成果をお聴きいただき、男声合唱の魅力を少しでも楽しんでいただければ幸いです。

団長 伊藤 正昭



練習風景(湘南国際村合宿にて)

プログラム

司会 湯口 三樹

オープニング

団歌「明日を見つめて」

作詞・作曲・指揮 角 祐一

I 黒人靈歌を歌う

1. Lord, I want to be a Christian
2. Set down Servant
3. This ol'hammer
4. Go down Moses
5. Soon-a will be done

指揮 堀部 隆二

編曲 三沢 郷
編曲 横山 昭
編曲 福永 陽一郎
編曲 福永 陽一郎
編曲 福永 陽一郎

II 世界の名曲を歌う

1. Ave Maria
2. Die Nacht
3. 家 路

指揮 角 祐一

作曲 J.アルカデルト
作曲 シューベルト

作曲 ドヴォルザーク

編曲 福永 陽一郎

~~~~~ 休憩 ~~~~

III 唱歌を歌う 三善晃編曲 「唱歌の四季」

指揮 堀部 隆二 ピアノ 飯田 由紀子

1. 曜月夜 作詩 高野 辰之 作曲 岡野 貞一
2. 茶 摘 作詩者不詳 作曲者不詳
3. 紅 葉 作詩 高野 辰之 作曲 岡野 貞一
4. 雪 作詩者不詳 作曲者不詳
5. 夕焼小焼 作詩 中村 雨紅 作曲 草川 信

IV 男声合唱組曲を歌う 「尾崎喜八の詩から」 指揮 堀部 隆二

作詩 尾崎 喜八 作曲 多田 武彦

- | | |
|----------|--------|
| 1. 冬 野 | 4. 天井沢 |
| 2. 最後の雪に | 5. 牧 場 |
| 3. 春 憋 | 6. かけす |

曲 目 解 説

第1ステージ 黒人靈歌を歌う

1. Lord, I want to be a Christian

シンプルなハーモニーが美しい曲。グリークラブアルバムに収められているこの曲は、多くの人を男声合唱の世界へといざなってきた。

2. Set down Servant

「白い上着」「一足の靴」「金のベルト」は、天国への死装束である。神のもとへと導かれる喜びを「幸せいっぱい、座ってなどいられない」と歌っている。

3. This ol' hammer

鉄道建設に携わった労働歌は「線路はつづくよどこまでも」が有名だが、この曲も鎖につながれた状況での過酷な労働から生まれた歌の一つ。

4. Go down Moses

モーゼは、エジプトで奴隸として働いていたユダヤ人を解放し、故国イスラエルへの旅に導いた預言者。歌は指導者の声に大勢が応じて答えるように進む。

5. Soon-a will be done

曲名は、死と共に苦しい人生が終わるという意味。天国で母親と再会し神様といっしょに暮らす思いが、現世での自由獲得の願いと重なって歌われる。

第2ステージ 世界の名曲を歌う

1. Ave Maria

アルカデルトの作曲したこの曲は、もともとは世俗曲であったが後世にアヴェマリアとして歌われるようになった。聖母マリアに対して、罪深い私たちのためにお祈りしてくださいと歌っている。きわめて和声的な美しい曲として知られている。

2. Die Nacht (夜)

シューベルトが残した100曲以上にのぼる合唱曲のうち約60曲は男声合唱であるが、この曲はその中でもとりわけ有名な曲である。穏やかな春の夜に、花で飾られ星明りに照らされて野原の、例えようもない美しい様を歌っている。

3. 家 路

いわずと知れたドヴォルザークの代表的な交響曲「新世界より」第Ⅱ楽章Largoを合唱に編曲したものである。コンサートプログラムの定番となっているこの名曲を福永陽一郎は前後9回にわたって合唱に編曲しているが、これはその最終版である。

第3ステージ 唱歌を歌う 三善晃編曲「唱歌の四季」

1. 曜月夜

「春の小川」「ふるさと」等、唱歌の名曲を残した高野・岡野コンビによる曲。舞台は奥信濃飯山付近の早春の情景。今も菜の花畑が千曲川のほとりを鮮やかに染める。

2. 茶 摘

日本に茶どころは多いが、京都府宇治田原町の茶摘み歌を元に作られたという曲。

3. 紅 葉

高野辰之が信越本線から眺めた碓氷峠付近の紅葉の美しさを歌った曲。地名と歌詞の「こいもうすいも」は掛詞にも思える。

4. 雪

「雪やこんこ」とは、「雪よ、来い」の意味。雪が降り、喜び跳ね回る子どもの姿は、昔も今も変わらない。

5. 夕焼小焼

作詩者中村雨紅は八王子市出身の教員。陣馬山の輪郭を真っ赤に染める夕焼けを眺め、寺から響く鐘の音を聞きながら、家路をたどった記憶が歌われている。

第4ステージ 男声合唱組曲を歌う「尾崎喜八の詩から」

作詩者：尾崎喜八

尾崎喜八は明治25年に東京で生まれた。読書好きで幼い頃から自然に親しみを覚える少年であったが、高村光太郎の知遇を得てその後の芸術活動に大きな影響を受けている。昭和49年82歳で鎌倉に没するまで、自然への深い愛情に満ちた作品を数多く残している。

作曲家：多田武彦

京大男声合唱団で指揮者を務め、卒業後は銀行員という仕事の傍ら日曜日に作曲活動を続け、退職後の現在も次々と男声合唱組曲を作曲し続けている。

タダタケ節と呼ばれる独特の美しいメロディーとハーモニーを駆使した作品は、歌う者聴く者を魅了してやまない。大学をはじめ一般合唱団からも続々と新作の委嘱が舞い込み、これまでに作曲した組曲は70以上、曲数は400曲以上にのぼっている。

組曲「尾崎喜八の詩から」について

多田武彦の膨大な男声合唱組曲で採り上げられた詩人は、当然ながら膨大なものになるが、美しい自然を心から愛し、自然への讃歌を自由詩に謳いあげた尾崎喜八もよく作曲されている。現在5つの組曲があり、この組曲はその第1作目である。作曲者の多田武彦は「尾崎喜八の詩は自由詩特有の作曲上の難度は見られたが、じっくり取り組んでいくと、そこにはそのまま音楽になんでも不思議ではない構成力があり、その詩には暖かい人間性と自然への素朴な讃歌があった」と述べている。

1. 冬 野

千葉県三里塚の開拓農村に身を寄せていた時、その原野の真冬の夕景である。

2. 最後の雪に

東京都大田区戸越公園付近に住んでいた大正10年29歳頃の作詩である。当時はこのあたりも畠や野原の広がるのどかな田舎であった。

3. 春 憋

67歳の老境に差し掛かったある日、偶然町田市相原の八木重吉の詩碑の立つ前を通りかかった時の作。今までの人生を振り返り、しみじみとその感懷をうたっている。

4. 天井沢

長野県に7年ほど住んでいた頃に、北アルプスの天井沢をうたつものである。

5. 牧 場

小諸市の南、蓼科山の北斜面にある御牧が原の情景をうたつものである。

6. かけす

長野県富士見高原での作。カケスは他の鳥や物音をまねることが巧みな鳥である。

プロフィール

常任指揮者 堀部 隆二

東京藝術大学音楽学部・声楽科卒業 二期会会員(テノール)。
畠中良輔、酒井弘、大熊文子諸氏に師事。イタリア・ミラノへ
留学。マリア・カルボーネ、アリゴ・ポーラ各氏に師事。

昭和45年、二期会・イイノホール主催「新進声楽家のタベ」
のジョイント・リサイタルでのデビュー以来、数多くのリサイタル、
コンサート、オペラに出演。特に、ヤナーチェック作曲オペラ
「イエヌーファ」の日本初演(若杉 弘 指揮)では、スチーバ役として出演、好評を得た。

一方、「声楽発声」に大変興味と関心を持ち、東京藝術大学
在学中より現在の声楽発声学会の会員となり研究を重ね、理
事を務めるなど力を注いできた。現在も、声楽発声教師として多くの声楽家を育てている。

また、永年、清泉女学院中学・高等学校の音楽教師として教育活動に携わり、同校
の元教頭。現在は同校音楽科講師を勤めている。

現在、「横浜さかえ男声合唱団」、「湘南アマデウス合唱団」、「葉山第九合唱団」の
常任指揮者を務めている。



団員指揮者 角 祐一

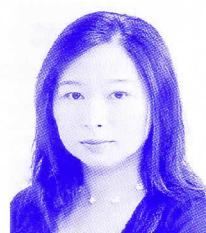


山口県出身。岩国高校合唱部でコーラスと出会いその魅力の虜にな
った。岡山大学グリークラブでは、2年次に副指揮者 3年次 4年次を
通じて正指揮者として活躍する。指揮法を同大学教育学部教授 菅
川欣三郎氏に師事。横浜さかえ男声合唱団では初代団員指揮者とし
て、常任指揮者 堀部先生不在時の練習を担当している。

2005年5月、横須賀芸術劇場で行われた神奈川男声合唱協会第
6回演奏会でデビューをした後、第2回定期演奏会から1ステージを
指揮している。団歌「明日を見つめて」の作詞・作曲者。

ピアニスト 飯田 由紀子

国立音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを田口順子氏、芝治子氏に師事。
現在「横浜さかえ男声合唱団」、「コール・フォンテ(女声合唱団)」
の伴奏のほか、朝日カルチャーで、シャンソンの伴奏をしている。
現在栄ソリスト会員。



司会 湯口 三樹

各種音楽会・結婚披露宴・ダンスパーティ等幅広い分野で司会をつとめている。

団員名簿

Top tenor

伊藤 正昭 斎藤 和夫 濑尾 弘吉 武田 和久
◎武部 幸生 菱山 武

Second tenor

伊藤 秀夫 塩山 弘 高取 哲彌 ◎角村新太郎
長尾 明信 藤原 正勝 渡辺 正久

Baritone

飯田 擴充 池田 勝敏 ◎近藤 紘士 中田 宏
平山 正宏 森 博昭 * Samuel Dabrusin

Bass

浅井 豊 伊東 哲 小林 満雄 首藤 達司
末廣 綱安 ◎鈴木 宏一 角 祐一 竹山 行三
古屋 信造 山口 健一 山辺 泰治

◎パーティーリーダー *特別出演

最近の主な活動

H17年10月 第2回定期演奏会	栄公会堂
10月 町田男声合唱団「マルベリー」との交歓会	町田市民ホール
10月 栄区芸術祭・秋の音楽祭(合唱の祭典)	栄公会堂
12月 桂台地域ケアプラザ・クリスマスコンサート	桂台地域ケアプラザ
H18年 2月 ヨコハマ・コーラルフェスト	みなとみらいホール
8月 桂台地域ケアプラザ訪問演奏	桂台地域ケアプラザ
10月 栄区芸術祭・秋の音楽祭(合唱の祭典)	栄公会堂
H19年 4月 第7回神奈川男声合唱協会(KAMCA)演奏会	川崎市教育文化会館
5月 第3回定期演奏会	栄公会堂

〈今後の予定〉

H19年 6月 介護老人保健施設「あさひな」訪問演奏	老健施設「あさひな」
7月 南部病院ロビーコンサート	南部病院
10月 栄区芸術祭・秋の音楽祭(合唱の祭典)	栄公会堂



「横浜さかえ男声合唱団」入団のお誘い

次回定演予定曲：「月光とピエロ」「日本のヒットポップス」他

練習日：毎週 土曜日 夜 6:30～9:00

練習場：桂台中学校音楽室

团費：月 3,000円

連絡先：伊藤正昭 TEL 045-894-1131

URL:<http://sakae-dansei.web.infoseek.co.jp/>

横浜さかえ男声合唱団 団歌

「明日を見つめて」

作詞・作曲 角祐一

一. ゆうやみせまる 丘の上

今宵も集いし われらが仲間

いくたの荒波 のりこえて

ふたたび春を 高らかにうたわん

横浜 さかえ男声 幸あれ さかえ男声

二. しおかぜかおる 横浜の

まちに生まれし われらが仲間

あしたを見つめて 今日もまた

こころ合わせて 高らかにうたわん

横浜 さかえ男声 幸あれ さかえ男声

